

夕映え

玉造厚生年金病院の理念

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこたらず安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者さまが自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。



若いエネルギーにBravo!

新しい卒後研修制度によって大学の医局中心の医師の人事が大きく変わろうとしています。まだ多くの病院は1つまたは2つだけの限られた大学の医局から研修医を派遣されています。

当院のように京都大学、山口大学、関西医科大学、川崎医科大学、滋賀大学の5つもの大学医局から卒後数年以内の若手の精鋭が一堂に研修しているのは極めて異例のことです。いまこれら若手の整形外科医たちは互いに刺激し、影響しあい、大学の枠を越えた繋がりを育み、切磋琢磨しています。

毎週水曜日の夕方6時から10時過ぎまで医局全員での症例検討会では受け持ち患者さんのプレゼンテーションや学会発表のリハーサル。これには毎回参加される開業医の先生もおられて、ときには激しい討論がなされます。金曜日の朝8時から全員で抄読会。さらに若手医師たちによる火曜日と木曜日の朝8時から読書会も1年以上続いています。年間1300件の手術に立ち会い、週2回の外来を手伝って、回診、病棟の雑用などルーチンの仕事をこなすだけで、気がつけば穴道湖に夕日はとっぴりと落ちてしまっているような毎日を送っています。おそらく自分だけの勉強時間は十分にとれず、ときにはやや寝不足の目をこすりながら前に向かって歩いてい



副院長 三木 堯明

ます。そして2、3年の研修を終える頃には各々が数編の学会発表や論文をものにして、見違えるほど逞しくなって去っていきます。そんな姿をもう30人以上も見送ってきました。若い人たちが来て私たちから学んでは、何らかのものを私たちに残して去っていく。この連続と続く繰り返しによって山陰地方の整形外科のメッカとしての玉造厚生年金病院の伝統の一面がいま醸成されています。

心身にエネルギーが満ちているときは仕事も余暇もともに充実するものです。これほど忙しいのに大山登山やスキー、日本海での素潜り、テニス、合唱など、休日にも実に貪欲にがんばっています。よく学び、よく遊ぶ若いエネルギーにBravo!



症例検討会の様子

医療の現場から ～治療トピックス～

膝の人工関節は正座ができるだろうか？

整形外科部長 小谷 博信



膝の人工関節は変形性関節症や関節リウマチなどの膝関節の高度変形に対して行われる手術です。

この人工関節は、50年以上前から欧米を中心に開発され、年々改良が加えられ近年では疼痛の除去、変形の矯正、膝の安定についてほぼ満足できる画期的な手術になってきており、近年の高齢化社会において盛んに行われる手術になっています。しかし、可動域についてはまだまだ改善の余地があります。

西洋では椅子の生活をするため、術後の膝の屈曲については90°曲がればよいということで満足されてきました。しかし、私たち日本人の和式の生活では、畳や床から立ち上がりの動作が多いため、さらに屈曲することが望まれます。「あぐら」のためには130°、「正座」には150°以上の屈曲が必要です。

本院では、術後の屈曲をよくするために、手術手技や術後の訓練の改善などさまざまな努力を行ってきました。その結果、最近では術後の屈曲が大変よくなり、あぐらや横座りできるのは約60%以上、正座ができるのが約15%となってきました。

アジア系の人たちが深い屈曲を求めているため、近年日本や欧米でもよく曲がる人工膝関節の開発が盛んになってきており、各メーカーから新しい深屈曲を目指した人工膝関節が開発されつつあります。

一昔前は「人工関節の手術をすれば膝が曲がらなくなる」と言われたものですが、現在はかえって術前よりよく曲がるようになってきています。



手術前



右膝手術
(あぐら可能)



手術後
2年



両膝手術
(正座可能)



深屈曲を目指した膝人工関節
写真上：ジンマー社
下：京セラ社

地域リハビリテーション支援センター事業より

7月16日、当院会議室において「転倒予防教室実施者のための指導者研修」を行いました。始めに当院整形外科部長の池田先生より、転倒・骨粗鬆症等ならびに当院での一日転倒予防教室に対する取り組みを講義していただき、続いて理学療法士による健脚度や測定方法の説明をしたあと、参加者には実際に検者・被検者になって実技指導を受けていただきました。また、ストレッチ体操やバランス訓練、リズム体操なども実際に体験していただきました。

参加された方は、地域の看護師・介護支援専門員等で予想を上回る人数での開催となり、会場が狭くなったほどでした。今後、各施設や職場での実践を検討したいとの声がアンケートからも多数あり、みなさんから有意義な研修であったとの評価をいただきました。



最大一歩幅測定の体験



40cm台昇降の体験



ストレッチ運動の体験

一日看護体験

去る7月28日、看護協会と共催で高校生の一日看護体験を行いました。当院では3回目の開催で、回を重ねるごとに参加者も増えてきて、今年は1年生から3年生の男女を合わせ9名が参加しました。簡単な説明のあと、師長の案内により病棟に行き、担当看護師と一緒に9時から14時までシャンプーや足浴を体験していただきました。患者さまから「ありがとう」とお礼を言われ高校生は嬉しそうでした。14時からは車椅子を利用していただく方の思いを知っていただくため、実際に車椅子の操作をしてもらいました。高校生は初めてとは思えないほど上手に操作していました。また、患者さま役となった高校生は早足で押されると怖かったとも語っていました。

看護を経験し、この9名の中から看護師が誕生してくれることを願いながら、体験後の高校生の背中を見送りました。



移動介助



足浴



車椅子体験

栄養部より ～暑い夏を乗り切ろう～

栄養部 中谷 勝治

【レバニラチャーハン】

まだまだ残暑厳しいこの頃ですが、家庭でも手軽に作れるこんなスタミナ料理で楽しんでみるのはいかがでしょうか。形にとらわれず、自由な発想で食を楽しみたいものですね。



【作り方】

- 1 サラダ油でみじん切りにしたんにんにくを炒め、その中に血抜きした牛レバーを入れ、酒とオイスターソースで下味をつける。
- 2 みじん切りの人参、グリーンピース、2cmに切ったにら、ごはんの順に炒め、塩、コショウ、化学調味料最後に鍋はだに醤油を回し入れ、味を調える。
- 3 ごま油で1人前につき、1個の溶きたまごを半熟気味に丸く焼き、その上に形どったチャーハンを盛りつける。
- 4 お好みで紅しょうがや福神漬、レタス等付け合わせましょう。また、サイコロ型に切ったトマトも合いますよ。

【材料 (2人前)】

・牛レバー	60g
・人参	20g
・にら	40g
・グリーンピース	20g
・にんにく	1片
・卵	2個
・精白米	200g
・サラダ油	20g
・ごま油	10g
・塩	3g
・コショウ	0.4g
・濃口醤油	6g
・オイスターソース	10g
・化学調味料	4g
・酒	10g

—1人前 643kcal—

タンパク質	19.7g
脂質	22.3g
塩分	2.7g

職員紹介




杜多 昭彦
整形外科医員
平成16年7月1日採用



石橋 祐子
東3階病棟看護師
平成16年4月1日採用

はじめまして。研修医2年目の杜多昭彦です。玉造に来てもう2ヶ月がたち、やっとこちらの生活にも慣れてきたところです。釣り好き(何でも?)なのでこっちはぜひ海釣りをしたいと思っています。冬はスキー場にも近いということなので楽しみにしています。それから仕事のほうもきちんとやっていきたいと思っています。何かおかしなことをすることがあると思いますが、その時は遠慮なく教えてください。

私は整形外科看護に興味があり、専門的な知識を身につけたいと思い当院に就職しました。そして回復期リハビリテーション病棟で働き、患者さまの回復過程に関わる喜びを感じています。実際に患者さまを受持ち、退院後の生活を見据えどのように援助したら自立した生活がおくれるかアドバイスを受けながら看護していますがとても難しいです。患者様の思いに近づくためには、社会勉強(遊びなど)も必要だと思います。どちらもがんばります。



こちら玉病探検隊

Vol.2 地域連携室

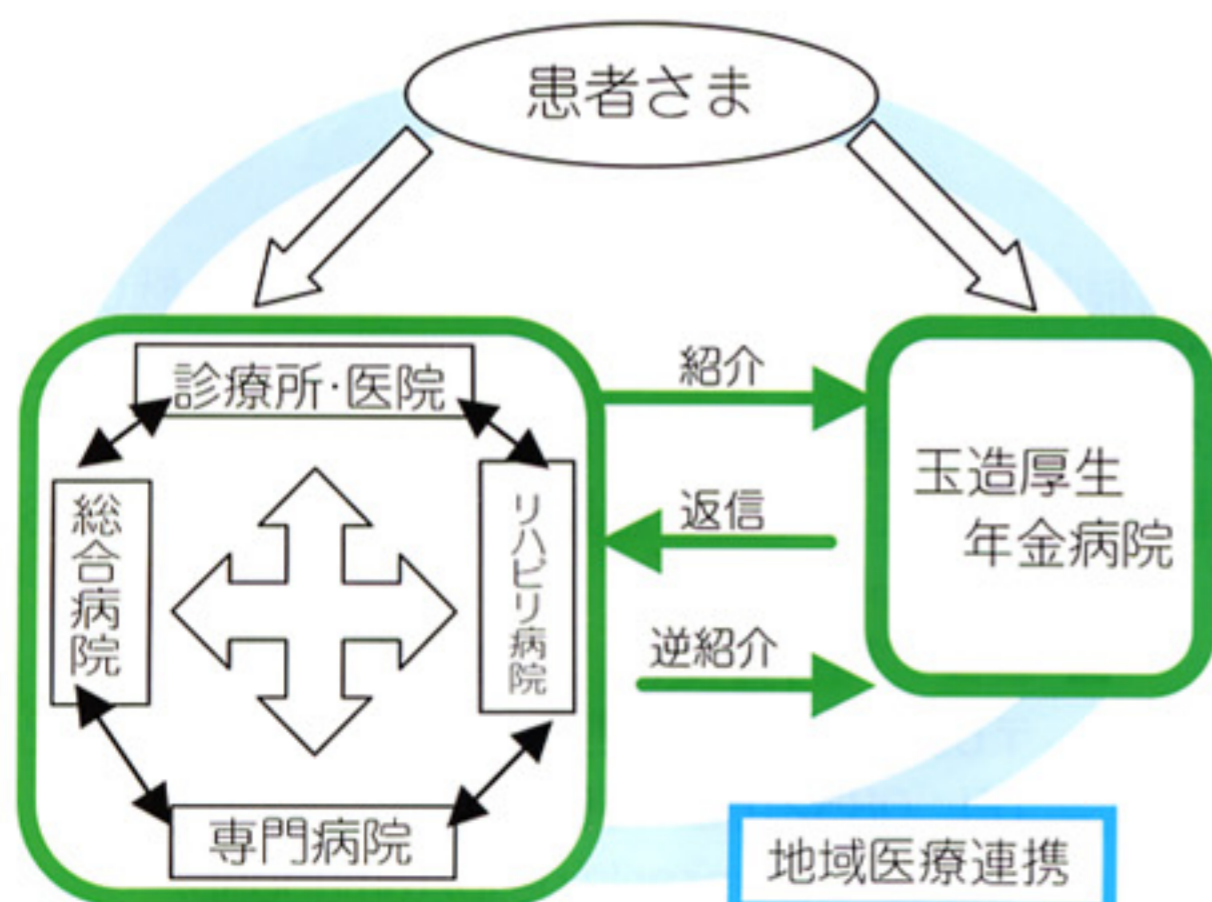
地域医療連携ってなに？

地域医療連携とは、地域にある医療施設がそれぞれの特徴や持っている医療設備、得意な分野などによって機能分担や専門化を進め、診療所と診療所、診療所と病院、あるいは病院と病院が円滑に連携しながら、患者さまの重症度や治療段階に応じたもっとも適切な医療を効果的に効率よく提供するための仕組みです。

たとえば、病気や怪我をしたら、まず近所の診療所（医院）を受診します。診察した医師が手術・検査などさらに高度な医療が必要と判断したら地域の総合病院あるいは専門病院などに紹介します。そのとき、今までの検査の結果や治療の概要など必要な情報を「紹介状」に書きます。

紹介先の病院では、「紹介状」をもとに必要な検査の追加や治療を行います。また、さらに特殊な医療が必要な場合はより専門性の高い病院を紹介します。そして、総合病院や専門病院で受けた治療の経過や結果は最初に受診された医師に報告され、その後も必要な治療が継続されます。この間の連携をスムーズに行うのが地域連携室です。

当院の地域連携室は「医療連携」をスムーズに行い、患者さまのご要望に沿った医療を提供するため



の窓口として患者様の受診に関するお手伝いをしています。紹介患者さまの診療予約受付および紹介患者さまの返信や経過報告などが紹介元にきちんと返されているかどうかの確認、他の医療機関への紹介や連絡などが仕事内容です。

また、「患者さま相談窓口」として医療や健康に関する悩み事・心配事の相談や病院に対してのご要望への対応なども行っています。

地域連携室は病院の玄関ロビー正面にあります。病院にお越しの節にはお気軽にお立ち寄りください。



- 室長（副院長） 三木 堯明（写真：前列左）
病院の音楽サークル「フォレストアンサンブル」で、チェロを演奏、毎年七夕、クリスマスにコンサートを開いています。
- 看護師長 福間 由里（写真：後列左）
午前中は玄関ロビーで総合案内をしています。医療に関する悩み、相談ごとの窓口です。診療や看護についてわからないこと、気になることなんでもお気軽に声をおかけください。
- 事務員 小田みゆき（写真：前列右）
診療予約受付など連携に関する事務をしています。
- MSW 竹下 博雅（写真：後列右）
通常、医療福祉相談室にいます。療養に伴う経済、社会、心理的な心配事、不安についてご相談をお受けし、問題解決のお手伝いをしています。

お知らせ

第4回リウマチ教室「秋の美術鑑賞」

リウマチ教室を当院で開催するようになって、今回で4回目を迎えます。今回は秋の行楽シーズン到来ということで、「秋の美術鑑賞」というテーマでバスの小旅行を計画しました。美術品を鑑賞しながら、交流の場を持ちたいと思います。



日時：平成16年9月17日(金) 13時30分～16時

場所：松江市 島根県立美術館

徳川美術館名品展 「姫君の華麗なる日々」

対象者：外来通院の方でマイクロバス乗車が可能な方

参加申込 玉造厚生年金病院 地域連携室まで

FAX 0852-62-1579

(平日午前9時30分～午後5時15分まで)

表紙の写真

広報誌の表紙には、当院の四季を彩る花々を写真部の職員が撮影し、毎回掲載していこうと思います。今号には、今年の猛暑にも鮮やかな花をつけている「百日紅」(さるすべり)です。夏の暑さの中でも、100日間咲き続けるといわれています。当院の入口の坂に赤や白の沢山の花をつけて咲いています。

編集後記

今夏の暑さは殊のほか厳しく、あたかも中国04総体が島根県を主会場に開催され、高校生の熱き戦いが繰り広げられました。「夕映え」第2号(夏号)もやっと発行の運びとなり、皆様にお届けすることができました。編集委員も皆様に親しまれ愛される「夕映え」の編集に、熱意を燃やし奔走してまいりました。

第2号の感想は如何でしたでしょうか。より良い広報誌編集のために皆様のご意見をお寄せください。お待ちしております。(T・S)

■ 編集・発行責任者 上尾 豊二
〒699-0293 島根県八束郡玉湯町湯町1-2
TEL 0852(62)1560
<http://fish.miracle.ne.jp/tamahosp/>